



米国パビリオンのユースアンバサダー

米国パビリオン内では、多彩なスキルや経験やエネルギーを携えた89人の若者が、米国から大阪へとやって来て来場者の皆さんをお迎えします。17歳から27歳までの若者で構成されたユースアンバサダーたちは、全米46州の他ワシントンDCやプエルトリコから集まっており、21か国語を話し、パビリオンのガイドおよび代表としての役目を務めます。

日本に到着する前には、テキサス州フォートワースにて研修プログラムを終えており、パビリオンでの役職割に合わせて必要なスキルを身に着けたり、日本語や日本文化のトレーニングを受けました。

パートナー団体である全米国際姉妹都市協会（Sister Cities International）によって、リーダーシップや熱意を評価されて選出されたアメリカ人ユースアンバサダーたちは、来場者をもてなし、問い合わせに対応したりと、各展示で来場者がより深い体験をできるようにお手伝いします。彼らの仕事は、まさに交流やホスピタリティ、そして人と人とのつながりに積極的に参加するというパビリオンの姿勢を反映したものです。

少なくとも1901年にニューヨーク州バッファローで開催されたパン・アメリカン博覧会以降、特化型パビリオンのサポートや芸術・科学研究への参加、来場者への展示の案内など、若者の参加は万博において欠かせない役目を担ってきました。ガイド、親善大使、客員研究員、そして最近ではユースアンバサダーと呼ばれる彼らのような若いリーダーたちが、これまで米国パビリオンで果たしてきた役割はますます大きくなっており、現在では必須のスタッフと考えられています。

[Sister Cities International](#)